



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 26 年 6 月 9 日(月)～ 乱横断防止柵塗り替えスタート 編

黒松街道のなかほどにある「木の香る道モデル地区」。指定から 3 年経ち、国交省のホームページにも掲載されているのに、秋田県内や能代市内ではまだまだ認知されていません。ウッドチップ舗装やウッドブロックの敷設、折りたたみ式スノーポールのほか、木材と鋼材の特長を生かしたハイブリットの柵が設置されていることはご存知でしょうか。木高研・佐々木先生お勧めのこのタイプは周囲の丸太一体型と異なり、容易にメンテナンス・交換ができるよう板がパネル状に取り付けられています。

肌荒れは酷くなってからではなかなか回復しません。木材はメンテナンスフリーな素材ではありませんので、お肌と同じく、日ごろのお手入れ、早めのメンテナンスが長持ちさせるには重要となってきます。そこで設置から 3 年目を迎える今年、再塗装を行うことにしました。

5 月 22 日、キシラデコールの商品名で知られる日本エンバイロケミカルズ株式会社の小林さん自らが商品サンプルを持っておいでになり、能代国道維持出張所の小嶋所長や小川さんと相談し、現地で再塗装の色を決めました。また、近くに飲食店があることから低臭性の製品を選びました。

6 月 9 日から取り外されたパネル状の柵は 2 回に分けて木高研の 1 階にある試験棟に運び込まれ、どのくらいの塗料が必要か、どのくらいの時間がかかるかなどを記録しながら佐々木先生やアルバイトの方々が塗っています。塗り方も日に日に上達し、時間もかからなくなってきています。

まち灯りの時には、きれいになったこの柵の前にも田楽が灯され、たくさんの来場者をお出迎えできると良いなと思っています。

文： 渡辺 千明



雨と風のあいにくのお天気。風で飛ばされないよう小さくしたテントの中で、小林さんが実際に塗ってみせて下さいました。



塗りなおし期間中、現場は支柱だけが立っていました(上)。再塗装前と塗装後では色が全く違い、早めのお手入れの必要性を再認識させられます。



表裏・間とそれぞれ 2 度塗りし、乾燥させます(上)。道行くドライバーで気づいた方は少ないかもしれませんが、見違えるようにきれいになりました(下)。皆さんも気をつけてみてみてください。